

(3) 平成23年度県委託及び補助事業について
平成23年度 「命をはぐくむ」家庭教育支援モデル事業活動報告

「地域に根ざした家庭教育支援」

清須市学校・家庭・地域連携推進協議会

《企画1》

1 行事名 中学生と乳幼児のふれあい交流会

2 行事のねらい

次世代の親である中学生が、赤ちゃんやその保護者とふれあい、交流する中で、赤ちゃんのぬくもりや重みを肌で感じ、「いのちの大切さ」を学びとる機会として、『中学生と乳幼児のふれあい交流会』を企画する。

3 行事の概要

(1) 場所・日時 新川体育館和室 8月19日(金) 10時～11時30分

(2) 参加者 乳幼児(生後1ヶ月～1才8ヶ月)とその保護者(11組)
託児利用5名

清須市立新川中学校3年生(男子3名 女子10名)

(3) 講師 ○家庭教育支援チーム MOMO (5名)

メンバーは子育てネットワークであり、主任児童委員・学校評議員・体育指導委員・保育サポーター・母子保健推進員等でも活動。

○清須市保健師 古川伊都子氏

(4) 内容

ア 手あそび・・・手あそびの効果などを伝え、親子で一緒にあそぶ。中学生も参加し、その楽しさを体感する。

イ ふれあいあそび・・・

・みんなで輪になり、中学生は赤ちゃんに指を握ってもらい音楽に合わせて身体をゆらす。布製の手作りボールを用い、歌に合わせてボール送りをする。

・3グループに分け、お母さん方から赤ちゃんにつけた名前について、「由来」や「思い」を聞く。

中学生も自分の名前について話す。

ウ 保健師さんのおはなし・・・

小さな穴を開けたカードを用い、受精卵の大きさや、胎児の成長の様子を学ぶ。妊婦体験ジャケットを着用し、妊婦疑似体験をする。聴診器を使って、赤ちゃんの心音を聴く。

エ 赤ちゃん体操・・・親子でスキンシップをしながら体操をする。

中学生は体験用の赤ちゃん人形を使って行う。

オ 抱っこ体験・・・お母さん方が見守る中で、赤ちゃんを抱っこし、ぬくもりや重みを実感する。月齢の異なる乳児に接することで、成長の過程を学ぶ。



妊婦疑似体験

カ ふれあい交流（おやつ）・・・手作りのおやつを食べながら、中学生とお母さん方が感想等を話し合う。



キ 「チーム MOMO」と交流・・・参加した親子を見送った後、中学生に感想や気づいたこと等を話してもらい交流する。

ふれあい交流

4 参加者の声

—中学生のアンケートより—

- ・お母さん方の、子どもを育てる苦労や大変さがわかりました。
- ・僕のお母さんも、僕を大事に育ててくれたんだなあと思いました。

—お母さん方のアンケートより—

- ・自分が初めて赤ちゃんを抱っこした時は、どうしたらいいのかわからずにいたので、この事業はよいと思った。
- ・母子手帳を見てもらったり、自分の体験を中学生に話せてよかった。

5 成果と課題

少子化や核家族化などで、赤ちゃんに接することの少ない中学生にとって、ぬくもりや重みを肌で感じとる貴重な体験となった。今回は保健師さんの協力により、「いのちの誕生」について、より具体的に学ぶことができた。

参加されたお母さん方は、依頼する段階から「行事のねらい」に理解を示してくださり、当日も協力的で、中学生に優しく接してくださった。また、中学生もお母さん方の赤ちゃんに接する姿や、話を聞くことにより、自分たちもこのようにして大切に育てられてきたことに改めて気づいた様子うかがえた。どちらの世代もこのような企画の機会さえあれば、参加したいと思っている人がいると感じた。

今後、次世代の親である子どもたちに、このような体験ができるように、取り組んでいきたい。



みんなで記念撮影

《企画2》

- 1 行事名 「親の学び」家庭教育研修会—ワークショップ—
テーマ ～幸せな家庭・絆について考えてみよう～
- 2 行事（テーマ）のねらい

親子の関係や絆を深めるには、親として何ができるか考える。子どもが安心してくらせる家庭・家族について話し合う中で、気づきを得る。

3 ワークショップの概要

- (1) 場所・日時 桃栄小学校視聴覚室 8月30日(火) 15時～16時
- (2) 参加者 桃栄小学校PTA常任委員及び保護者(18名)
- (3) 講師 家庭教育支援チーム MOMO
- (4) 内容

- ア グループ分け・・・4つの国に分け、行きたい国を選ぶ。
- イ アイズブレッキング・・・△のイメージするものを書き出し、発表する。
- ウ グループワーク・・・ダイヤモンドランキングを使う。

(ア) 幸せな家庭を作るには、どんなことが大切か、シートにあらかじめ9項目の言葉を書いておき、残り自分の思いを書き足す。

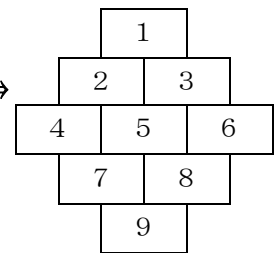
(イ) ランキング表へ、大切に思う順に貼り、グループ毎に意見交換。

(ウ) グループ毎で話し合った内容発表。

(エ) 振り返りシートに気づきを書く。

愛情	笑顔
会話	傾聴
団らん	健康
協力	思いやり
感謝	

ランキング表



4 振り返りシートより

- ・楽しかった、とても勉強になった、改めて家庭について見直すよい機会になった。
- ・お互いの考えを知り、意見交換ができてよかった。
- ・トイレなどよく見えるところに貼っておきたい。
- ・自分に正直な気持ちになり、家族に感謝の気持ちをもてた。 研修会のように
- ・人それぞれ考え方が違っていいと気づき、答えはひとつでないと感じた。
- ・子どもへの接し方が参考になり、また子どもたちにもやってほしいと思った。



5 成果と課題

夏休みにもかかわらず、常任委員及び保護者の方のご参加、またこの趣旨にご理解をいただいた桃栄小学校の先生方のおかげで、研修会を進めることができた。

参加者の方々は、最初は緊張されていたものの、次第に和んだ雰囲気の中で活発な意見も交わされるようになり、私たちにも熱意が伝わってきた。また、振り返りシートにもたくさんの言葉をいただき、チーム MOMO からの思いが伝わったように思えた研修会となった。

今後もこのような企画を設け、子育て中の保護者の方に参加していただけるように取り組んでいきたい。

《企画3》

1 行事名 親子ふれあい交流会

2 行事のねらい

親子の絆を深めるため、「親子ふれあいゲーム」や「ニチレクボール」を通して、ふれあい交流の場を設ける。

3 行事の概要

- (1) 場所・日時 桃栄小学校体育館
12月3日(土) 9時30分～11時30分
- (2) 参加対象者 桃栄小学校児童とその保護者(親子9組、計20名)
- (3) 講師 家庭教育支援チーム **momo**
レクリエーション指導者クラブ 伊藤ナチ子氏 片山福恵氏
- (4) 内容

ア 親子ふれあいゲーム…

親子でレクリエーションゲーム、フラフープや新聞を用いたゲームをする。

イ ニチレクボール…

レクリエーション講師により、ニチレクボール大会をする。



親子ふれあいゲーム

4 成果と課題

親子で一緒にゲームを体験し、楽しい時間が過ごせた。子どもの生き生きとした姿が見られ、それぞれの親子が楽しく交流することもできた。今回の体験は、親子の絆をより深める、貴重な場になったように思う。

今後、企画する際には、時期や日程などを考慮しながら取り組んでいきたい。

《企画4》

年間行事及び今後の予定

行 事	内 容 と ね ら い	開 催 日
momo の部屋	桃栄小学校視聴覚準備室(momo の部屋) を拠点とし、保護者の相談をうけたり、授業の間の休み時間に、児童に手づくりおもちゃの作り方や、伝承あそびを通して交流をする。	毎週月曜日 10時～正午 13時～15時
保育園参観学習	清洲中学校1年生の家庭科の授業に、保育園へ同行し、中学生を見守り、助言をする。	7月・9月 (全6回)
読み聞かせ	新川児童館を訪問し、読み聞かせをする。他地域の児童とも交流を深める。	毎月第4木曜日
ふれあいサロン	懇談会の期間中図書室で‘ふれあいサロン’を開催し、保護者と交流の場をもつ。また、託児も行う。	1・2学期
桃栄小学校 PTA バザー	体育館にて‘喫茶 momo ’のコーナーで、手づくりお菓子とお茶などで、地域の方と交流をする。	10月29日
入学説明会 (親の学び研修会)	新1年生の保護者に、家庭での子育てに関する心得について話をする。	平成24年 2月16日

※ その他 桃栄小学校の行事に参加協力

平成23年度 学校支援地域本部事業活動報告

「学校・家庭・地域を結ぶ学校支援地域本部事業」

－清須市内に広がる学校支援地域本部事業－

清須市学校・家庭・地域連携推進協議会

1 はじめに

本市では平成20年度より西枇杷島中学校区において、学校支援事業の取り組みを開始した。平成21年度からは、2名の地域コーディネーターが、学校とボランティアとのパイプ役として活躍している。また、平成22年度からは、読み聞かせボランティアの養成講座を開催するなど、ボランティアの育成に取り組み、学校を支援するネットワークづくりを進めている。平成23年度は、今までの取り組みを参考に、市内の清洲東小学校、春日小学校にも事業を広げた。それぞれの学校の状況に応じて、支援の必要な活動に取り組むこととした。

2 事業の概要

(1) 清須市学校・家庭・地域連携推進協議会開催

6月28日 第1回 平成22年度の事業報告、平成23年度の会長、副会長の選出
事業の説明、平成23年度の事業計画

1月12日 第2回 活動報告と来年度の計画について

(2) 学校支援ボランティアの募集

新たに取り組みをする2つの小学校では、保護者に向けてボランティア募集チラシを配布し学校支援地域本部事業についての周知を図った。

西枇杷島中学校区にも、新たなボランティアを募集するため3校の保護者と地域の各団体にチラシを配布した。



(3) コーディネーターの活動

今年度は、学校支援地域本部事業を市内に広げるため新たに小学校2校で取り組んだ。今までの取り組みを参考にしながら、それぞれの学校の状況に応じて打合せをしながら進めていった。

(4) ボランティア養成講座の開催

学校図書室において、本の補修や読み聞かせをするボランティア養成講座を清洲地区において開催した。基本的な知識・技術等実習を3日間の日程で学び、講座終了後には、小学校において図書修繕を行った。また、小・中学生を対象にした読み聞かせ講座も開催し、児童館や保育園において読み聞かせを行った。

3 学校支援ボランティア活動の実際

(1) 西枇杷島中学校での取り組み

本年度も地域の下小田井防犯協会に本事業の活動を支援していただいた。

① 環境整備支援

本校には、環境整備の難しい「アジサイ園」があり苦慮していたところ、園芸に造詣の深い方のアドバイ



アジサイ園の整備風景

スをもとに下小田井防犯協会に整備をお願いした。除草作業はもちろん、剪定をするなどの一連の活動を6月から11月にかけて、朝の1時間程度、継続して行った。ボランティアにとって無理のない作業計画で、また見通しを立てた活動になり、大変有意義なものとなった。

② 学校行事支援

2学期の大きな行事として、「ふれあい体育大会」と「ふれあい文化祭」がある。地域と家庭との連携を大切に考え、学校行事を広く開放している。下小田井防犯協会のメンバーしかし、職員のみでは来場者の確認に職員を配置するゆとりがない現状であった。今年度は、2つの行事とも下小田井防犯協会の方が校門で防犯活動に取り組み、円滑に行事を実施することができた。また、「ふれあい文化祭」では、学校内の案内や展示物の保護にも協力していただいた。揃いのジャケットを身に着けているため、校内でも一目でわかり、学校・来校者の双方が安心して行事を行うことができた。



下小田井防犯協会のメンバー

(2) 西枇杷島小学校での取り組み

① 畑の土づくり作業

4月29日に地域のボランティアによって学校園・畑の土づくり作業を行った。冬の間土が固くなり雑草が生えた畑を、子どもたちと一緒に除草した後、耕運機で起こし畑の土づくりが完成した。この畑では、子どもたちが生活科や理科、総合学習などで野菜や花を植え、植物の成長を観察した。秋には、収穫したさつま芋で、収穫感謝祭として、お世話になった地域のボランティアの方を招いて交流をもった。



土づくり作業の方との交流

② 読み聞かせと朗読劇サークル「スマイル」

読み聞かせボランティアの2団体により、月に2回、低学年図書室で昼の休み時間を利用して、本の読み聞かせを行った。また、6月と11月の教育相談週間には、子どもたちに大型絵本や立体紙芝居、ペープサートなど工夫した読み聞かせも行った。

また、読書週間には、朝の時間に各クラスで、本の読み聞かせをした。今年度も秋の読書週間の最後に、朗読劇を上演して、会場の体育館を感動で埋め尽くした。

③ 見守り隊

地域の寿会の方々が中心となって、学校の登下校や地域での子どもたちの日々の安全を見守った。地域の方と、子どもたちが日常であいさつや言葉のかわす場となっている。また、運動会では、寿会が朝早くから校門警備パトロールボランティアを実施した。見守り活動だけでなく、1月には、1年生が生活科で昔の遊びを通して地域の方



パトロール活動

と交流を深めた。

(3) 古城小学校での取り組み

① P T A活動による学校支援

P T A委員による2つのクラブが行事毎にボランティアを募りながら活動した。ブック・スマイルクラブでは、学期に一度、図書室の本の修繕活動を行っている。

また、エコ・スマイルクラブでは、園芸活動を中心に夏休みの親子除草の運営と学校西側歩道橋下の花壇作りに取り組んでいる。花壇作りでは、9、10、11月に草取りから花の苗植えまで行った。完成した花壇は、登下校の児童の癒しの場となっている。



学校西側歩道橋下花壇

② HAPPY×2 (はっぴいはっぴい)

毎週金曜日は、授業前に各学級に入って、読み聞かせを行った。1学期の読書週間には、学年ごとに視聴覚室で聴く朗読を実施した。

また、2学期には、全校の児童が楽しみにしている、朗読劇を実施した。小道具、大道具はもちろん、脚本から、バイオリン、クラリネット、ピアノの生演奏など全てが手作りの朗読劇は、今年度で10周年を迎えた。



HAPPY×2 読み聞かせ

③ みまもり隊

児童が、毎日安心して登下校できるのは、「みまもり隊」の協力によるものである。毎日、交差点、横断歩道、踏切など、危険箇所には何人か立って、児童を交通事故や不審者から守っている。「みまもり隊」は、地域の寿会の方々が中心で、登下校の見守りだけでなく、児童との交流活動も盛んに行っている。2月にはマラソン大会の走路警備などにボランティアとして参加を予定している。また、3年生の社会科では、「昔の話を聞く会」に祖父母として、お話をするだけでなく、一緒に給食を食べたり、遊んだりして児童と交流を深めた。

(4) 清洲東小学校での取り組み

① 運動会・学習発表会での支援 (清洲ばやし・清洲太鼓)

運動会では、ふれあい種目として保護者や祖父母、地域の方も交え、全校で「清洲ばやし」を踊った。地域の伝統芸能保存会民踊部の方々に指導をいただき、一緒に踊ることは、子どもたちにとって地元を知るよい機会であるだけでなく、民踊部の方々にとっても子どもたちとのふれあいを楽しんでいただく機会となった。

また、学習発表会では、5年生が地域の和太鼓部に指導を受けた。その厳しくも温かい指導は子どもたちの意欲を引き出し、本番での力強い演技となって子どもたちの大きな自信へとつながった。



民踊部の方々とともに踊る清洲ばやし

② 読書活動の支援

本校では読書活動に力を入れ、本にふれる機会の充実を図っている。その一つに、保護者・地域の方の読み聞かせグループ（びっくり箱）の活動がある。毎月の読み聞かせに加え、図書委員会の子どもたちへの本の選定、朗読指導などの支援もしていただき、本を通しての子どもたちとの交流もいっそう深まってきている。



びっくり箱による読み聞かせ

(5) 春日小学校での取り組み

① 宮重大根栽培支援

東門を入った所にある畑には、毎年3年生の総合的な学習の時間で地域の伝統野菜の宮重大根が栽培されている。

宮重大根純種子保存会（20名）の方から、宮重大根の歴史・特徴や栽培の仕方について説明を受け、種まきを一緒に行った。その後2回の間引きをし、12月には、大きく育った宮重大根を収穫することができた。3学期には保存会の方を招いて、お礼の会を開くことにしている。この会は、子どもたちのまとめと発表の場であるとともに地域の方との交流の場となっている。



宮重大根の収穫

保存会のかたも、子どもたちに指導することで伝統野菜が次世代へとつながっていることに喜びを感じていた。

② 図書室整備

8名の保護者がボランティアとなり、低学年図書室を中心に整備を行った。低学年図書室は、床にそのまま座って読書をするため、床の状態をみて、じゅうたんの修理をしていたが、本年度はマットをつなげ床に敷いた。黒板などには、読書と呼びかける言葉かけや季節感のある絵をかき、読書の環境を整えている。また、高学年図書室の本を含め、新刊図書のカバーかけや痛んだ本の修理も行った。ボランティアの活動により読書環境が整えられた。

4 成果と今後の課題

この事業も4年目を迎え、当初から実施している西枇杷島中学校区の3校では、充実した取り組みが継続し、地域のボランティアによる積極的な支援がされ、地域のボランティアによる活動に対して、児童や生徒たちに、地域のつながりや絆ができてきている。この事業の成果として、学校外でも地域の方とつながり身近な存在として、気楽にあいさつや言葉を交わす姿がみられる。そして、生徒の中に自らもボランティアをする意欲が芽生えてきている。また、地域の方もボランティアとして自らの知識や経験を生かす場として学校で発揮する機会を得て生きがいとして楽しみながら活動を行っている。

今後の課題としては、活動を継続し、息の長い着実な取り組みを進めていくことであり、今年度から、取り組んだ小学校の2校には、それぞれの学校にあわせた人材やネットワークを大切に育てていきたい。今後は、市内全地域での取り組みを目指しており、地域のことをよく理解した地域コーディネーターを育てていく必要がある。